

食品の安全等に関する県民意識調査結果（食育）について

平成30年8月～9月に実施した「食品の安全性」及び「食育」に関する県民意識調査の結果から、今回は、「食育」に関する主な結果を紹介します。

なお、今年度は本調査の結果を基に「群馬県食育推進計画（第4次）『ぐんま食育ころプラン』」を策定します。

■食育に関すること

食育に関して実践していること

食育に関して実践している内容は「規則正しい生活リズム」が約6割（62.8%）と最も高く、次いで「栄養バランスのとれた日本型食生活」、「食に感謝し、『もったいない』という気持ちを持った食事」となっています。

また、実践している割合が低い内容は「生産から消費までのプロセスの理解」、「郷土料理や伝統料理など食文化継承活動」となっています。



「規則正しい生活リズム」や「栄養バランスのとれた日本型食生活」などの食育の実践割合は高くなっていますが、生産から消費までの食の循環の中で、生産者を始めとして多くの関係者により食が支えられていることから、そのプロセスの理解が進むよう食育活動を推進していきます。

ふだん朝食を食べる頻度

朝食を「ほとんど毎日食べる」とした人の割合は84.7%となっています。（図1）

一方、若い世代（10歳代～30歳代）の8.3%が朝食をほとんど食べていません。また、朝食を「ほとんど毎日食べる」若い世代のうち、ほとんど毎日主食・主菜・副菜をそろえて食べている人の割合は約2割（22.8%）です。（図2 年代別グラフ）

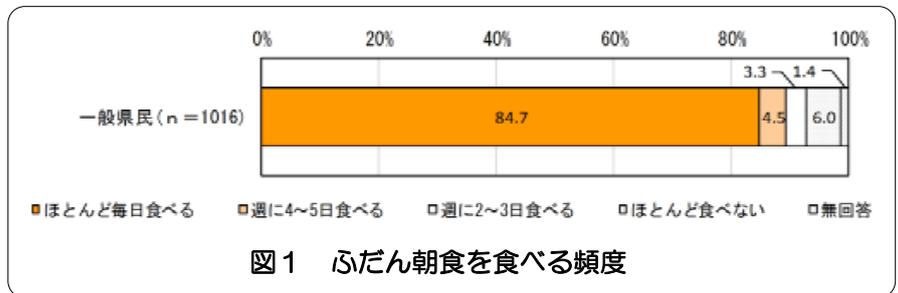


図1 ふだん朝食を食べる頻度

若い世代は、他の年代と比較して朝食を食べない人の割合が高くなっています。また、朝食を食べている人も、その内容をみると、主食・主菜・副菜をそろえて食べている人の割合が低く、食事の質も問題となっています。平成31年度には、大学生等の若い世代の食に関する実態調査を実施して、現状を把握し、次の群馬県食育推進計画（第4次）の策定に活かしていきます。

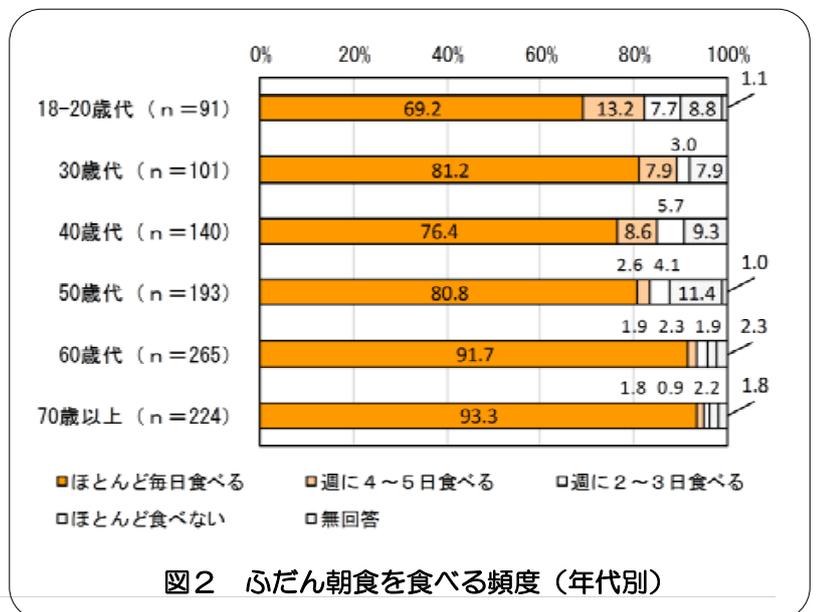


図2 ふだん朝食を食べる頻度（年代別）

共食について

朝食または夕食を家族や友人と食べる「共食」の1週間あたりの平均回数は9.6回でした。

また、1日のすべての食事を1人で食べている県民は7.3%で（図3）、70歳以上の県民の11.2%がすべての食事を1人で食べています。（図4年代別グラフ）

毎月19日は「いただきますの日」です。家庭だけでなく、友人や地域の人など“誰かといっしょに食べる”も共食です。語りながら食事を囲む「共食」の場は身体も心も豊かにしてくれます。



食文化の継承について

郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味についての認知度は約5割（47.2%）となっています。（図5）
※「よく知っている（7.9%）」と「知っている（39.3%）」の合計

また、「よく知っている」「知っている」と回答した人のうち、地域や次世代の人へ食文化を「伝えている」とした人の割合は約3割（33.6%）となっています。（図6）

群馬県では、失われつつある地域食文化を次世代へ継承していくための「ぐんまの食文化継承テキスト」を平成30年度に作成し、これを学校や地域における食文化継承活動に活用してきます。

※県ホームページに「食品の安全等に関する県民意識調査報告書」の全文を掲載しています。
(http://www.pref.gunma.jp/05/by01_00194.html)



ご意見・ご感想
お問い合わせは
こちらへ

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1
群馬県健康福祉部 食品・生活衛生課 食品安全推進室
TEL：027-226-2424 FAX：027-243-3426
電子メール：shokuseika@pref.gunma.lg.jp
★群馬県HPでバックナンバーをダウンロードできます。
(<http://www.pref.gunma.jp/05/d6200163.html>)



【フェイスブックのQRコード】
★公式フェイスブックで情報発信中！ (<https://www.facebook.com/gunma.shokuanzen/>)

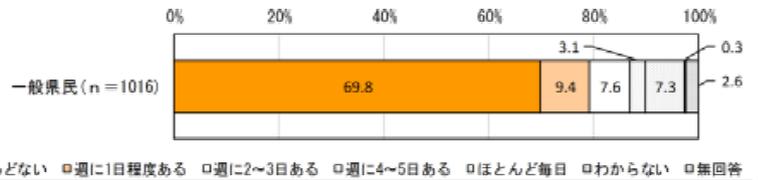


図3 1日のすべての食事を1人で食べる頻度

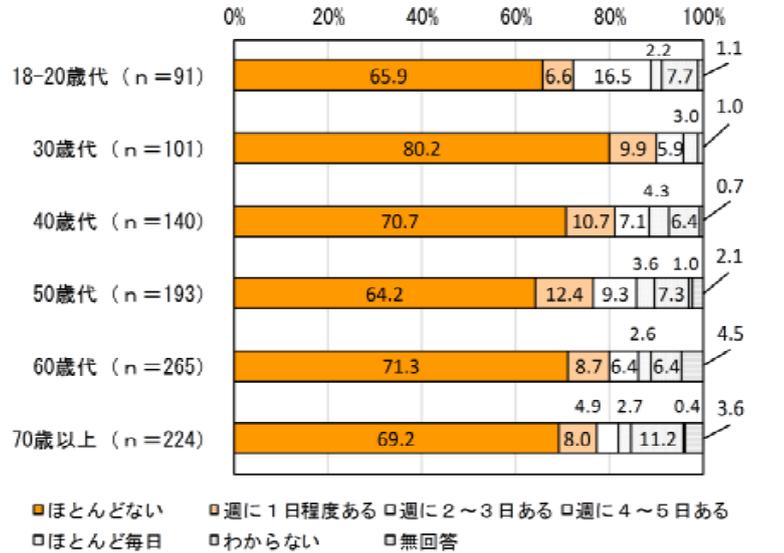


図4 1日のすべての食事を1人で食べる頻度（年代別）

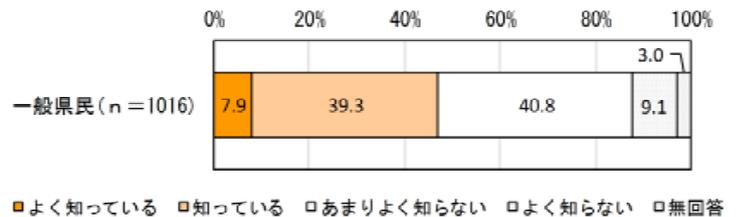


図5 郷土料理など地域や家庭で継承されてきた料理・味の認知度

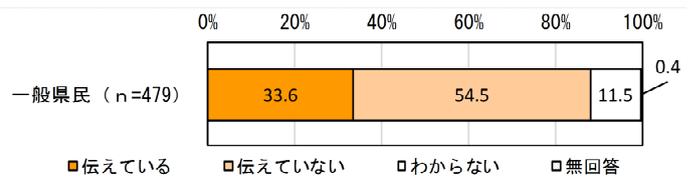


図6 郷土料理など地域や家庭で継承されてきた料理・味を地域や次世代に伝えているか

群馬県 県民意識調査

